

# NEXT 長崎人材育成事業 令和7年度 第2回 事業運営委員会 【実施報告】

## 4 第2部 対話会

分野・参加者	主な意見
<b>農業分野（A班）</b> 長崎県農業協同組合中央会 農業経営課 諫早農業高校 北松農業高校 高校教育課 （6名うち生徒2名）	①NEXT 長崎人材育成事業の成果と課題について <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校では体験できない専門的・先進的なスマート農業を学ぶ機会となり有益。</li> <li>・JAや農業経営課の協力により、学校では難しい体験や視察が可能となり助かっている。</li> <li>・農家見学などの日程調整は難しいが可能な範囲で対応してもらい感謝している。</li> <li>・本事業を通じて教員自身も学びを深めることができる。</li> <li>・学校の枠内だけでは最先端の学びに追いつけず本事業が学びの深化につながっている。</li> <li>・地域企業を知る機会となり学校の在り方や地域との関わりを考える契機となった。</li> <li>・高校生と企業側が直接意見交換する機会は貴重であり良い刺激となっている。</li> <li>・周囲とつながる取り組みは重要であり、企業側・行政側双方に良い影響を与えている。</li> <li>・スマート農業や先進農家の視察ができたことは、高校生にとって大きな経験となった。</li> <li>・高校での学びや本事業での経験を卒業後、生かしていきたいと考えている。</li> </ul> ②今後の産学官連携に向けて <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内だけでなく他地区の先進農家も視察できる仕組みがあると良く、地域ごとの特産物や栽培方法を学べるよう振興局・JAの協力を期待している。</li> <li>・JAは要望があれば関係部署に依頼できるため、積極的に相談してほしい。</li> <li>・振興局も同様に対応可能であり、農業大学校や農林技術開発センターとの連携も活用できる。</li> <li>・他分野の学校と連携することで学びが広がり、学校同士のネットワークを通じて企業ともつながる可能性が高まると期待。</li> <li>・今回の経験は将来の農業経営に活かせる学びとなったとの感想。</li> <li>・発表は緊張したが大人からの多面的な質問を受けたことが良い経験となった。</li> </ul>
<b>農業分野（B班）</b> 農業経営課 諫早農業高校 北松農業高校 高校教育課 （6名うち生徒3名）	①NEXT 長崎人材育成事業の成果と課題について <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生が企業や自治体と関わることで、生産以外の多様な農業分野や関係する人々の存在を知り、農業への見識を深める機会となった。</li> <li>・将来農業に携わるうえで、多様な人との関わりがあることを理解できたことが有益である。</li> <li>・取組に対して多角的な意見をもらえたことが刺激となった。</li> <li>・結果が出ない研究でも継続が重要であり、生徒にとって難しい部分もあったが、企業連携や新たな発見など学校では得られない学びがあった。</li> <li>・食品流通課の生徒もドローン研修に参加でき、スマート機器やドローンを実体験することで興味が深まった。</li> <li>・同世代の高校生同士が交流する機会も農業経営課で設けており、良い学びの場となっている。</li> <li>・農業法人視察を通じて、経営的視点を持つことの重要性を理解し、液肥についてもコスト面の考慮が必要だと感じた。</li> </ul> ②今後の産学官連携に向けて <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者の話を直接聞く機会は生徒にとって大きな意義があり、結果がすぐに出ない取組であっても継続が重要である。</li> <li>・高校間の連携にも可能性があり水産業の副産物を肥料として活用したり、農産物を商業高校の販売実習に供したりするなどの協働が期待できる。</li> <li>・生産だけでなく経営の視点を持つことが重要であり、事業者や行政との関わりが農業従事への実感を育て、モチベーション向上につながる。</li> <li>・調理分野への興味が入学の動機となる場合もあり、将来農業以外の分野に進んでも学んだ経験をどこかで生かしたいという思いがある。</li> <li>・学校行事の雰囲気が入学のきっかけとなることもあり、卒業後は農業大学校で</li> </ul>

	<p>知識を深めたい意欲がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家業が農家であり将来継ぐ意志があり、卒業後はまず実習助手として経験を積みたいと考えている。</li> </ul>
<p><b>水産分野 (A 班)</b>  (株)CAC Holdings  水産経営課  長崎鶴洋高校  (株)昌陽水産  (6名うち生徒1名)</p>	<p>①NEXT 長崎人材育成事業の成果と課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒラメの加工に取り組むことができた。</li> <li>・水産分野に対しておもしろさを感じるようになった。</li> <li>・水産業は男性中心と思っていたが、陸上養殖や加工分野では女性も活躍できることを知った。</li> <li>・漁業については YouTube で学ぶ場面が多い。</li> <li>・QR コードを読み取り、AI がより詳しい情報を提供する仕組みがあると良い。</li> <li>・AI を上手に活用することが今後の課題である。</li> </ul> <p>(チャッピーや Google の AI など)</p> <p>②今後の産学官連携に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・離島や地域に水産教育を広げていけると良い。</li> <li>・水産業の男性中心の体質を変えていく必要がある。</li> <li>・SNS や AI を活用している企業が成長しており、若者も積極的に使えるようになることが重要である。</li> <li>・1年生は種苗から出荷までの流れを学び、捌く実習も行っている。アプリ・ビジネス・水産の学習ではリモート活用も有効である。</li> <li>・学校の枠を超えたマッチングの取組が求められる。</li> <li>・中学校への発信を強化する必要がある。</li> <li>・長崎の水産を盛り上げたいという思いがある。</li> <li>・ざっくばらんに話し合う機会を設けることが望ましい。</li> <li>・若者(卒業生)同士のネットワークづくりが重要である。</li> </ul>
<p><b>水産分野 (B 班)</b>  教育庁  水産経営課  長崎鶴洋高校  高校教育課  (6名うち生徒2名)</p>	<p>①NEXT 長崎人材育成事業の成果と課題について</p> <p><b>【NEXT を通じて印象に残っていること】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の出前授業で魚群探知機に興味を持ち、その企業への就職を希望するようになった。</li> <li>・水産業は不安定であるため、まず企業で働き資金を貯めてから地元で漁師になりたいという思いがある。</li> <li>・将来船に乗ることを目指しており、漁家研修が特に楽しく印象に残っている。</li> </ul> <p><b>【来年3年生でやってほしいこと】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・減少しているイカの漁獲量について分析を行いたい。</li> <li>・時化で漁に出られなかったため、もう一度漁家研修に参加したい。</li> </ul> <p>②今後の産学官連携に向けて</p> <p><b>【学校として今後やりたいこと】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒラメの新たな活用方法をブランド化(長崎鶴洋ブランド)したい。</li> <li>・市の水産センターから提供されたシマアジの活用方法を検討しており、刺身試食を通して意見を集めている。</li> <li>・築町横丁や地元スーパー(エレナなど)で販売できれば面白いと考えている。</li> </ul> <p><b>【授業について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電波法など覚える内容が多く、難しく感じる部分がある。</li> <li>・無線は座学だけでは理解が難しく、船での実体験が学びに役立つ。</li> <li>・水産現場のインターンシップを実施したいが、事業者が街中にないため交通面の課題がある。県や市による支援で体験機会が増えることが望ましい。</li> <li>・先輩の働く姿を知ることによって航海に興味を持つ生徒も増えている。</li> <li>・リモートよりもリアルで体験したい。</li> </ul> <p><b>【中学生へのPRのために必要なこと】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女子制服の改善により女子が増え、それに伴い男子も増える可能性がある。</li> <li>・不良が多いという誤ったイメージがあるが、実際はそうではない。</li> <li>・女子商業が進学先としての強い競合となっている。</li> <li>・建設業では女性社員を見せる工夫がされており、水産業でも女性の活躍を見せられると良い。</li> <li>・漁業は女子が少なく、時間の不規則さが子育てとの両立を難しくしている。</li> </ul>
<p><b>工業建築分野 (A 班)</b>  長崎県工業連合会  企業振興課</p>	<p>①NEXT 長崎人材育成事業の成果と課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業との連携を通して社会を知ることができた。</li> <li>・製作前には分からなかった金銭面について製作過程を通じて理解が深まった。</li> <li>・普段の授業では工程ごとに学ぶが、設計から加工まで一貫した製造を学ぶことができた。</li> </ul>

<p>長崎工業高校 鹿町工業高校 高校教育課 (6名うち生徒2名)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際にものを作る経験が自信につながった。</li> <li>・担当教員が積極的に挑戦しており頼もしく感じた。</li> <li>・生徒が社会の一端を知る良い機会となっている。</li> <li>・企業側の感想も聞きたいと感じている。</li> <li>・ものづくりの楽しさを忘れず、あきらめずに取り組む姿勢が大切である。</li> <li>・人の気持ちを考えながらものを作ることが重要である。</li> <li>・製造は作るだけでなく、どう応用するかが重要である。</li> <li>・教科書では学べない実践的な内容が学べる機会となっている。</li> <li>・課題研究は3年生だけでなく、2年生から履修することでさらに学びが深まると考えている。</li> </ul> <p>②今後の産学官連携に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農家との連携やスマート農業について学びたいと考えている。</li> <li>・農業高校と協力し、地産地消の製品づくりに取り組みたい。</li> <li>・エンジン構造を授業で学んでいるため、自動車メーカーなどと連携し実物に触れながら学びたい。</li> <li>・企業にもピストン機構を利用する設備があるため、学びの接点が存在する。</li> <li>・何事にもチャレンジ精神が重要であり、コミュニケーションで課題を乗り越える力が必要である。</li> <li>・後輩に教える力も身につけてほしいと期待している。</li> <li>・製造の方法を一つに限定せず、造形など企業から学び発展させてほしい。</li> <li>・鹿町工業だからこそ実現できた取り組みがあると感じている。</li> <li>・NEXTの目的以上に、働くうえで大切な力を学ぶことができた。</li> <li>・教科書に載っていない多くの気づきを得たことが大きな成果である。</li> </ul>
<p>工業建築分野 (B班) 長崎県建設業協会 建設企画課 佐世保工業高校 高校教育課 (6名うち生徒2名)</p>	<p>①NEXT長崎人材育成事業の成果と課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的な学びの良い機会となっており、今後も継続してほしいと考えている。</li> <li>・半導体分野の出前授業は内容・回数ともに充実しており規模も大きく、建設分野もさらに深める必要があると感じた。</li> <li>・校舎補修や施工を企業と生徒が共同で行えば、学びと環境改善の両立ができ、記念プレートを設置するなどの工夫も良い。</li> <li>・高卒就職者の3年以内離職率が約4割であり、原因としてコミュニケーションや人間関係が指摘されている。大人と接する機会はその改善に寄与する。</li> <li>・他校の取組を見て刺激を受けた。特に佐世保商業の観光ビジネスでは年間70時間のうち7割が企業連携であり土日の取材も行うなど非常に深い学びとなっていた。</li> <li>・企業と連携した舗装に関する課題研究は良い経験となり自身の成長につながった。</li> <li>・企業と作業を共にすることで不安が解消され、建設現場の人々が優しいと知り大きな自信となった。</li> <li>・舗装の取組を通じて地元建設業への就職を決めた。</li> <li>・インターンシップよりも主体性をもって取り組み、自ら考え動きながらプロの技術を体感できた点で大きな学びとなり、「社会に出る予習」になった。</li> <li>・幅広い年代の人と接する中でコミュニケーションの取り方を身につけることができた。</li> <li>・企業入社後のギャップを小さくすることにつながると感じている。</li> </ul> <p>②今後の産学官連携に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手確保は重要課題であり、NEXTの取組は大変有意義である。生徒と直接話ができただけでも良かった。</li> <li>・入職者を増やし、離職者を減らすためにも企業との連携の質を向上させたい。</li> <li>・生徒の発表を聞き、産業界側も学ぶ点が多かった。今後も企業とのつながりを広げたい。</li> <li>・県外ではGWに新入社員を母校へ訪問させ、生徒と交流させる企業があるが、県内ではほとんど行われていないため、導入を検討したい。</li> <li>・今後の展望も含めて意見交換ができ、関わりを継続しながらより良い学びにつなげていきたい。</li> <li>・今回の取組は就職後の自分の成長につながるものであり、感謝している。</li> <li>・この取組を継続し、後輩にも同様の経験をしてほしい。</li> <li>・企業の方々と打ち解けられるかどうかが、取組の効果を高めるカギであると感じている。</li> </ul>

<p><b>工業建築分野 (C班)</b>          企業振興課          長崎工業高校          高校教育課          (6名うち生徒2名)</p>	<p>①NEXT 長崎人材育成事業の成果と課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生が将来やりたいことを見つけるのは容易ではないが、この取組を通じて将来の仕事を見つけられるのであれば非常に素晴らしいことである。</li> <li>・普段の授業では企業連携の機会が多くないことを改めて実感した。半導体分野のように企業から定期的に授業を受けられる環境は貴重であり、有益な学習機会である。</li> <li>・企業授業が一方通行にならないよう、必ずワークショップを取り入れており、生徒が自ら考え、話し合い、アウトプットすることで学習効果が高まっていると感じている。</li> <li>・専門的な内容もワークショップ形式により生徒に深く伝わる有効な方法であると実感している。</li> <li>・多くの企業とインターンシップ連携を行っているが、今回講義を行った半導体企業の工場見学ができれば、さらに学びを深められると考えている。</li> <li>・企業の授業を通じて半導体を専門的に学ぶことができ良い機会となった。</li> <li>・内容が難しい部分もあったが、特に若い講師は親しみやすく、生徒に寄り添った指導で学びやすかった。</li> <li>・経験豊富な講師からは専門知識だけでなく、仕事への姿勢や新入社員としての心構えなど実践的な話も聞くことができた。</li> <li>・このような授業は進路選択や社会に出た後に役立つと感じている。</li> </ul> <p>②今後の産学官連携に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内を代表する企業と協働した点が非常に意義深い取組である。</li> <li>・県内には他にも高校と連携を希望する企業が多く、より多くの企業と高校が協働することで、県全体の教育をさらに発展させられると考える。</li> <li>・企業連携に加えて大学との協働も進んでおり、長崎大学の分析装置を活用して学びを深めている。</li> <li>・外部との連携は学習効果を高めるだけでなく、生徒の進路選択にも大きく寄与しており、今後ますます重要になると考えている。</li> <li>・講義を受けた企業の工場見学ができれば、学んだ内容のつながりが理解しやすく、より深い学びにつながると感じている。</li> <li>・課題研究でも企業連携の機会があれば良いと考えている。特に気象観測用ペットボトルロケット製作の際、企業からのアドバイスがあれば完成できたのではないかと感じている。</li> <li>・発表に丁寧に耳を傾けてもらい、対話的に意見を聞いてもらえたことが嬉しく、大学進学後にも今回の経験を活かしたいと考えている。</li> </ul>
<p><b>工業建築分野 (D班)</b>          建設企画課          佐世保工業高校          鹿町工業高校          高校教育課          (4名うち生徒2名)</p>	<p>①NEXT 長崎人材育成事業の成果と課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生の1年間だけでは短く、もっと早くから取り組みたかった。</li> <li>・職業選択の幅が広がると感じている。</li> <li>・試作しながら専門家からアドバイスを受けられたことが良かった。</li> <li>・企業連携について、佐工は毎週、鹿工は不定期でWeb会議が多く、もっと直接来てほしいと感じている。</li> <li>・実体験は生徒のさまざまな可能性を広げるものである。</li> <li>・中学生に対してこの取組を積極的にアピールしてほしい。</li> <li>・中学1～2年生の段階で夢や目標を考え始める時期にインパクトを与えることが重要である。</li> <li>・業界側の協力体制の整備が必要である。</li> <li>・予算があっても人件費までは賄えないという課題がある。</li> </ul> <p>②今後の産学官連携に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス全員(40人)で取り組める活動を行いたいという希望がある(建築科では家づくりなど)。</li> <li>・他分野の経験をしてみたいと考えており、別学科・工業・商業・農業についても知りたいという声がある。</li> <li>・NEXT事業の認知度が低く、企業・行政・学校にもっと広くアピールすべきであると感じている。広報が進めば連携を希望する企業も増える。</li> <li>・学校と企業をつなぐ役割が必要であり県がその役割を担う。</li> <li>・企業は何から始めればよいか分からず、教員も日程調整や連絡の負担が大きいという課題がある。</li> <li>・企業側にやる気がなければ連携が長続きしないため、モチベーション維持が重要である。</li> <li>・実態把握を行い、教員・生徒のニーズをサポートすることが大切である。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業・教員の意見交換の場に生徒が参加しても良いのではないか。</li> <li>・生徒目線で考えなければ教育として成立しない。</li> </ul>
<p><b>商業分野（A班）</b></p> <p>長崎県商工会議所連合会 十八親和銀行 観光振興課 佐世保商業高校 (6名うち生徒1名)</p>	<p>①NEXT 長崎人材育成事業の成果と課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の堂々とした発表や意見表明から、成長がはっきりと見られた。</li> <li>・観光分野での学びでは、アイデアだけでなく単価やマネタイズまで踏み込んだ学習ができていた。</li> <li>・プレゼン力・提案力・コミュニケーション力が向上している。</li> <li>・産業界として求めているのはプロ育成ではなく、社会で必要な基礎力の育成であり、その点は高く評価できる。</li> <li>・データを基に観光ビジネスを創造・提案するという今年度の目的は達成されつつある。</li> <li>・外部講師や産学官連携により、学校単独では実現できない学びが成立した。</li> <li>・地元の魅力に気づき、それを言語化し発信できる力が育っている。</li> <li>・外部講師による講義が多く、インプット過多となり生徒の疲労が見られた。</li> <li>・アウトプット・振り返り・整理の時間が十分に確保されなかった。</li> <li>・知識を活用するワークや思考を深める時間が不足していた。</li> <li>・フィールドワークの時間が十分に確保されなかった。</li> <li>・知識習得と実体験のバランスをとる必要がある。</li> <li>・観光業界の裾野が広いため、関係人口的な関わり方も検討する必要がある。</li> <li>・他地域・他事例を学び、自分事として捉える機会を増やす必要がある。</li> <li>・単位数を増加させることで、アウトプットやフィールドワークの時間を拡充することが求められる。</li> </ul> <p>②今後の産学官連携に向けて</p> <p><b>【観光ビジネスについて】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際大学・県立大学との連携が検討可能であり、特に国際大学の旅行業取扱資格取得の取組は観光分野との親和性が高く、旅行商品の企画・商品化にも挑戦できる可能性がある。</li> <li>・十八親和銀行の学生ビジネスコンテストの活用が推奨される。</li> <li>・県内高校生とつながりたい企業が増えており、必要に応じて協力が可能であるとの声がある。</li> </ul> <p><b>【会計分野について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会計分野では棚卸・建設・造船など多様な業種との連携が考えられる。</li> <li>・商工会議所や金融機関と連携し、創業支援やマネタイズについて深く学ぶ必要がある。</li> <li>・原価計算・原価管理を基盤とし、経営判断ができる人材育成が重要である。</li> <li>・自社の経営指標を把握できていない経営者が多く、会計教育の社会的意義は大きい。</li> <li>・高校生との連携を希望する産業界の声があり継続的な対話の場が必要である。</li> <li>・学校・産業界・行政が双方向に関わる産学官連携を進める必要がある。</li> </ul>
<p><b>商業分野（B班）</b></p> <p>観光振興課 佐世保商業高校 高校教育課 (6名うち生徒1名)</p>	<p>①NEXT 長崎人材育成事業の成果と課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業・漁業分野でも新技術導入が進んでおり、教育現場での新しい取組を知る貴重な機会であったと感じられた。</li> <li>・どの学校の取組もレベルが高く、高校生が新しい知識を吸収し真摯に学ぶ様子が好印象であった。</li> <li>・外部講師の授業に興味を持つ生徒が多く、生徒に「ワクワク」が生まれることの重要性が再認識された。</li> <li>・本事業により教科書中心の授業から実践的な外部講師型の授業へ転換できた。</li> <li>・受け身の授業姿勢から、発表を前提とした授業により自己を客観視でき、達成感が得られた。</li> <li>・「簿記」は観光プランの策定に、「ビジネス情報」は市場調査の分析に役立ち、学校の学びが実社会とつながることを実感できた。</li> <li>・外部講師の比率が高くインプット過多で知識整理の時間が不足したが、振り返ると充実した学びとなった。</li> <li>・次年度は単位数を4単位に増やし整理・振り返りの時間を確保する。</li> <li>・観光課題の探究を通じて、チームワーク・リーダーシップの重要性、地元の可能性に気づき、進路希望が県外から市内へ変化した。</li> <li>・生徒は地元のことを意外と知らない傾向があり、観光地の体験訪問や修学旅行との連動など、座学と体験の往還が必要である。</li> <li>・カリキュラム検討を産学連携で行うことも有効である。</li> </ul>

	<p>②今後の産学官連携に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光プランづくりの壁打ちや現場理解の場面で、必要に応じて支援できる体制がある。随時相談してほしいとされている。</li> <li>・経営支援課では事業者視点での支援を行っており、企業紹介など間接的な形で協力が可能である。また、商店街支援を通じて学校と地域の協働を支えることもできると考えている。</li> <li>・佐世保商業の生徒はコミュニケーション能力が非常に高く、「良い学校」という評価を超えて、社会で通用する「良い生徒」を育成していることを地域・産業界に理解してもらうことが重要である。</li> </ul>
<p><b>情報分野 (A 班)</b> 長崎県情報産業協会 長崎県立大学 新産業推進課 諫早商業高校 高校教育課 (6名うち生徒1名)</p>	<p>①NEXT 長崎人材育成事業の成果と課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎大学情報データ学科に学校推薦で合格した。</li> <li>・入学時は進路未定であったが大学訪問や保護者面談を通じて進学を決定した。</li> <li>・情報分野だけでなく福祉分野にも興味を持っている。</li> <li>・大学卒業後の進路は未定である。</li> <li>・NEXT では WEB 制作と SEO 対策の講義が印象に残り、検索上位表示の仕組みを理解できた。</li> <li>・自身は IT オタクではないという認識である。</li> <li>・諫早商業高校と連携協定を締結しており、要望に応じて情報系企業を紹介している。</li> <li>・AI・IoTの進展が速く、地場企業が追いつけていない事例も見られる。</li> <li>・高校と連携し高度専門人材を育成したいという意向がある。</li> <li>・高校生の大学見学を積極的に受け入れている。</li> <li>・情報セキュリティ学科を持つ大学は全国的に少なく、今後 300 万人規模で情報人材が必要とされる中で重要な役割を担っている。</li> <li>・情報セキュリティの学びは学部だけでは不十分であり、社会人になってからも修士・博士課程で学び続けることが推奨される。</li> <li>・産業界と高校が連携することで、学校だけでは得られない幅広い知識を取り入れることができ、今後も積極的な連携が期待される。</li> <li>・長崎県は IT 企業の誘致を進めており、誘致企業の中には団体会員として出前授業を実施する企業もある。</li> <li>・協会に加入していない企業は大学と個別に連携している場合もある。</li> <li>・商業科や国際コミュニケーション科は以前から外部企業連携を行ってきたが、情報科は連携協定締結を契機に出前授業が開始された。</li> <li>・今年度の3年生はパイロット的に出前授業を受講しており、本格導入は R8 年度からとなる。</li> </ul> <p>②今後の産学官連携に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内で県内 IT 企業の話聞く機会がなく、社長だけでなく従業員の声も聞きたいと感じている。</li> <li>・IT 人材として社会に出る際に必要とされるスキルを知りたい。</li> <li>・基礎的な学びは高校で、応用や教科書にない内容は外部から学びたいという希望がある。</li> <li>・県内の情報系大学を見学したり授業を受けたりできれば、進路選択に直結する可能性がある。</li> <li>・高校在籍中に県内企業の紹介がないと、企業を知らないまま卒業する可能性があり、企業紹介の機会が必要と感じている。</li> <li>・外部企業の出前授業は生徒のモチベーションや集中力の向上に効果があり、今後も依頼していきたい。</li> <li>・生徒だけでなく教員も刺激を受ける学びとなっている。</li> <li>・出前授業を単発で終わらせず、担当教員によるカリキュラムマネジメントで生徒の成長につながる授業にすることが重要である。</li> <li>・協会は長崎大学や県立大学と連携し、出前授業や情報交換を行っている。</li> </ul>
<p><b>情報分野 (B 班)</b> 新産業推進課 諫早商業高校 (4名うち生徒2名)</p>	<p>①NEXT 長崎人材育成事業の成果と課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイバーセキュリティでは小中学生向け講話を実施し (今年 4 校)、今後は広報を強化し実施校を増やしたいと考えている。長期的な継続が望まれる取り組みである。</li> <li>・ゴミ分別アプリの開発ではレビューの重要性を学び、2名で開発しつつ 30 名から評価を受けて機能改善につなげた。</li> <li>・人手不足により作業が滞り、県内 7 市町にしか対応できなかった。</li> <li>・今年度は連携協定と発表会の実施に留まったが、次年度は課題設定段階から情</li> </ul>

	<p>報産業協会に参画してもらう予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画性を重視した課題研究とするため、地域設定や予算など詳細な計画を立てる必要がある。</li> <li>・小学生向けクイズなどが好評で、反応が良かった。</li> <li>・プレゼンテーションや伝え方について教員から高い評価を得た。</li> <li>・人手不足が深刻であり、県内就職者が少ないことが要因の一つである。</li> <li>・チームで取り組む知識や実践力が求められている。</li> </ul> <p>②今後の産学官連携に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は社長へのインタビューが中心であり、資格取得中心の学びだけでなく、企業でのインターンなど直接学べる機会を求めている。</li> <li>・1年生の頃からホームページ作成など体験的授業に取り組んでおり、3年の情報実習では企業のWebページ作成に挑戦した。</li> <li>・公式LINE等で多様な情報を得られる仕組みを整えてほしいと考えている。</li> <li>・仕事はチームで取り組むものであり、その学びを学校でも重視したい。</li> <li>・IT企業は男女関係なく働ける環境が整っており、職場環境も清潔でホワイトな印象が強い。</li> <li>・セキュリティ分野は女子の割合が多いという傾向がある。</li> <li>・実際に企業を訪問し、現場の声を聞くことが重要である。</li> <li>・若手技術者の話は生徒にとって特に興味深い学びにつながる。</li> <li>・座学だけでなく体験的授業を増やし、より実践的なカリキュラムにしたい。</li> <li>・カリキュラム変更や外部人材の導入により授業内容を向上させたいと考えている。</li> <li>・現場の最新状況を早めに生徒に伝えることが重要である。</li> </ul>
<p><b>福祉分野 (A班)</b> 福祉人材センター 長寿社会課 (株)ミナサポ 口加高校 高校教育課 (6名うち生徒1名)</p>	<p>①NEXT 長崎人材育成事業の成果と課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉はケア技術だけでなく、支援が必要な人が「自分らしく生きる」ことを理解する学びが重要である。</li> <li>・福祉に限らず人材不足が課題であり、外国人人材の活用かテクノロジーの導入が不可欠である。</li> <li>・VRを使わずに支援を必要とする人の状態を体験することは可能だが限界があり、VR活用は若い世代が課題を考える良いきっかけとなる。</li> <li>・学校と企業がつながる機会が生まれたことに感謝しており、今後も活かしていきたい。</li> <li>・この取り組みはミナサポの協力があって成立しており、非常にありがたい存在である。</li> <li>・自身は高校時代にこのような学びを経験しておらず、今回の取り組みにワクワクを感じた。</li> <li>・VR機器の存在を伝えた後の発想・アイデア・実行は高校生主体であり、取り組みは生徒の努力の成果である。</li> <li>・介護実習で利用者の困り感を解決するため、「VRお墓参り」をテーマにコンテストへ応募し、プレゼン予定である。この発想はアントレプレナーシップ講座から得た考えである。</li> <li>・小学生から高校生を対象とした「キッザケア」は、福祉や看護の世界を体験的に学ぶ良いきっかけになる取り組みである。</li> </ul> <p>②今後の産学官連携に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と企業がつながる機会が生まれたことに感謝しており、今後も継続して活かしていきたいと考えている。</li> <li>・今回の取り組みを教材化していきたいという意向がある。</li> <li>・人材不足の状況で人材を奪い合うのではなく、「少しでも支える」というマインドを広げ、地域の助け合いにつなげていきたい。</li> <li>・テクノロジーには、その助け合いの精神を広める力があると考えている。</li> </ul>
<p><b>福祉分野 (B班)</b> 教育庁 長寿社会課 (株)ミナサポ 口加高校 (5名うち生徒1名)</p>	<p>①NEXT 長崎人材育成事業の成果と課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI時代においても、福祉はテクノロジーの良い部分を取り入れつつ、人との対話を大切にしたい。</li> <li>・VRゴーグルを活用した高齢者福祉の学びに関心を持っている。</li> <li>・VR教材としては有効であるが、支援の在り方や声のかけ方など、「あたり前をあたり前にしない視点」が重要である(例:点字ブロックの使い方など)。</li> <li>・福祉は「福祉×○○」としてどの産業ともつながることができ、AI・IoTなど多様な分野との連携が広がる可能性がある。</li> <li>・VR教材の制作は難易度が高く、全国的にも珍しい取り組みであり、今後も継</li> </ul>

	<p>続するなら協力したいという姿勢が示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材として活用するためには、状況設定（シナリオ）や介護場面での適切な声かけ方法などを構築する必要がある。</li> <li>・VR教材を次の探究活動につなげる仕組みづくりが求められる。</li> </ul> <p>②今後の産学官連携に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の初めての取組を今後も継続し、より良質な教材として活用できる形に仕上げていく方針である。</li> <li>・ミナサポの全面協力のもと、教材の質を高めていく予定である。</li> <li>・点字ブロックやユニバーサルデザインは、実際に利用する人の気持ちに沿って設置されていないケースも多く、改善の視点が必要である。</li> </ul>
--	---

## 事業運営委員（産業界・大学）コメント

### ○株式会社 CAC Holdings

- ・AI も含めてすべての産業が変わってきており、本委員会でいつも AI 活用が当たり前の教育をする必要がある旨を言っていたが、今回の発表を聞いて、AI がある前提の教育であることを知って驚いた。この延長でいくといい教育になると思う。

### ○長崎県農業協同組合中央会

- ・本日初めての参加であったが、県と学校と産業界が一体となって発表しているこの場があることがすごいと思った。
- ・自分たちの時代は一方的に教えられていた。
- ・産業界や県の人など、外の人と話すことは生徒にとっていい体験になる。
- ・農業は食糧生産を国内・県内で作っていく意義が大きく、これは他の産業でも言えて、各産業も地域で発展させることが必要。
- ・高校生はいろんなことに興味をもって、つながりをもつことが大事。

### ○長崎県情報産業協会

- ・先日、諫早商業高校の課題研究発表会に行ったら、AI や AR など進んだテーマをやっていた。
- ・現在、情報産業協会では、学校からの依頼に応じて協力をしているが、そういったテーマにも対応できるよう、スタートアップの企業なども会員に入れるなど、当協会自体も進化していく必要性を感じた。
- ・生徒の皆さんにはぜひ地場企業に就職してほしい。

### ○長崎県立大学

- ・先日、理事長、学長と県立大学の方向性について話しを行った。これからホワイトカラーの仕事がなくなって、エッセンシャルワーカーや AI 人材などが不足する中で、大学の在り方、大学で何を教えていくべきかを考えている。
- ・県立大学であるため、長崎県のためになる大学でなければならないと思っており、高校にも協力したい。現在、大学院を拡充しているため、大学院生と高校生が交流する機会などもつくっていければと思っている。

#### ○長崎県工業連合会

- ・工業連合会では、5つの工業高校と連携協定を締結。その理由として、その時々企業の担当と教員が繋がっていても、異動により関係性がなくなってしまうため、継続した連携を行うため。
- ・本日の発表を聞いて、教科書に載っていないことを課題研究で学んでいると思った。  
(たい焼き機の製造やアスファルト舗装の過程で難しかったことなど)
- ・教科書に載っていない体験をすることは重要であり、学校にお願いしたのは、それを体験できる課題研究を2年生から行ってもらえると3年生のときにより深い研究になり、また進路選択の影響にもある。

#### ○長崎県建設業協会

- ・佐世保工業高校で建設業の企業と13・14回の連携した取り組みを行って生徒の貴重な体験の場となっていた。
- ・今後、更に連携を広めていくにあたって、企業の意識を変えたり、やり方の工夫も必要になってくると思うので、関係者との対話を続けていきたい。
- ・高校生にとって大人との対話の場が貴重な体験であるため、高校生にはぜひ大人と接する際には、肩ひじをはずらぬに気楽にコミュニケーションをとってほしい。
- ・本日、他の分野の事例を見て、当協会もまだまだな部分があるなと感じた。

#### ○長崎県商工会議所連合会

- ・企業の一番の課題は人手不足。産業界で求める人材はコミュニケーション能力があり、課題を見つけ自分の頭で整理して説明できる人材、とよく言うが、まさに本日発表した高校生がその人材であると感じた。
- ・商工会議所では産業別に部会を設けており、地元の高校生と連携したい会員企業が増えてきており、商品開発など連携しやすくなっていると思う。ぜひそういった連携の際には商工会議所に相談してほしい。

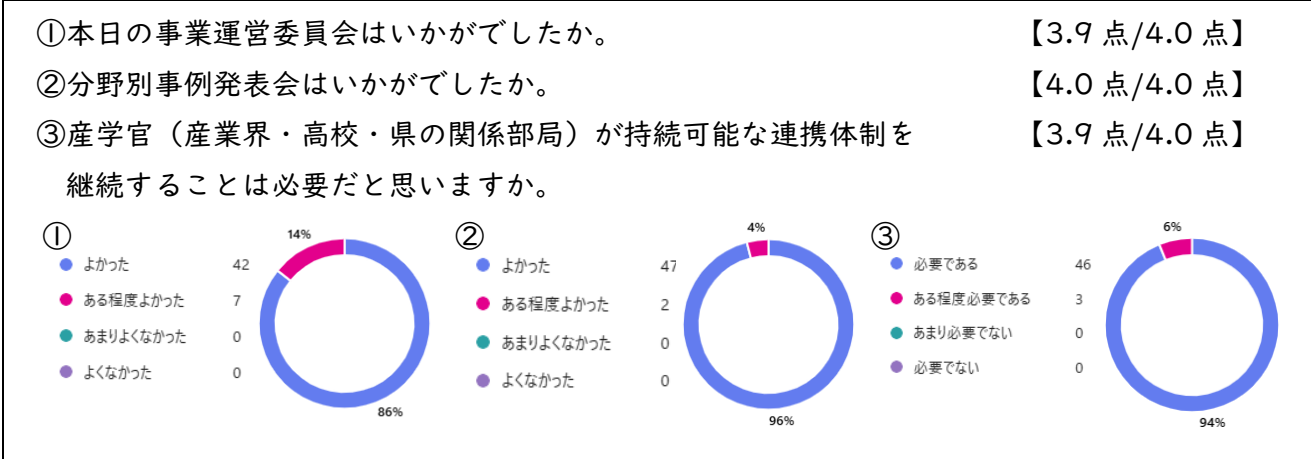
#### ○十八親和銀行

- ・本日初めての参加であったが、この産学官連携はとてもいい取り組みだと思った。
- ・勉強の中に好きなことを見つけることが重要であると考えており、本日の佐世保商業高校の生徒との対話の中で、「地元にもこんなにいいコンテンツがある」「地元にお金を落とす仕組み」といった声が聴かれて感動した。長崎は観光業が盛んであるが、お金を儲ける視点が弱いので、ぜひそういった考えで引き続き取り組んでほしい。
- ・FFGでは、学生のビジネスコンテストをやっているため、ぜひそういった場にも参加してほしい。
- ・人材育成を行うことは地域が元気になるためにはとても重要である。

○長崎県社会福祉協議会

- ・口加高校の発表を聞いて、生徒と教員が共通の目標をもって取り組んでいて、生徒のアイデアをアイデアで終わらせない教育活動をしていると聞いて、大変感動した。
- ・県の方で、高校生向けに介護テクノロジー体験や介護の魅力伝道師などの事業を行っており、口加高校ではすべて活用されていた。
- ・県でもいろんな事業が準備されているので、ぜひ活用してほしい。
- ・今後も、産学官連携で人材育成に取り組んでいきたい。

5. アンケート結果（概要）：（回答者 49 名）



（アンケートの意見）

Ⅰ 分野別実践事例発表、対話会の感想

【事業運営員（産業界・大学）】

- ・授業や教科書には載っていない現実社会で起こり得る事を体得、指導を受け困難を乗り越えることが出来たが、それは何にも代え難い経験で生徒にとってひとつの大きな産業人としての一歩になったものと思う。
- ・企業との連携事業に対する高校生の生の声を聞くことができたのは良かったと思います。
- ・高校生の段階で、研究発表を通じ行政、産業界の社会人と意見交換出来るのは貴重な経験。いろんな形で横展開、発展出来ればと思う。
- ・「天の時 地の利 人の和」 実践するタイミング 具体的戦略は大切であるが、最も大切なのは「人の和」団結の力だと感じました。
- ・佐世保商業高校より観光ビジネスへの取り組みをお聞きしました。外部講師による講義は楽しく、地域の魅力を再確認できたという生徒さんからの意見が印象に残りました。若者の域外流出に歯止めを掛けるには、郷土愛の醸成が不可欠です。今回のプロジェクトで、ひとり一人の生徒が生まれ育った故郷の歴史、産業、企業などに関心をもって頂き、これを誇りとしてもらうことが大きな成果ではないかと思います。大変参考になるプレゼンテーションでした。
- ・人口減少の中で、人材育成の重要性は尚一層高まっています。教職員の働き方改革の中、校長、教職員の皆様は、何かとご苦労が多いかとは思いますが、民間の力を上手に活用していただくと幸いです。

- ・若者の域内定着や人材育成には時間がかかります、10年後20年後を見据えて、NEXT 長崎人材育成事業を継続していただくことを期待します。
- ・他の産業分野の取組みもたいへん参考になります。あと、各産業分野の意見交換の時間も手厚くしていただけると一層素晴らしいものになると思います。
- ・生徒が普通の授業に参加しているだけではなく、就業後に活かせることをイメージされながら参加されていることが感じ取れた点がとても興味深かった点となります。普通科の高校ではなく、就業を見据えた高校だからこそ、実践の効果が大きい可能性もあり、非常に有用だと考えました。
- ・限られた時間のなかでの課題研究（探求）ですが、生徒自身が納得し得るものであったように思います。発表の中に「根拠のある提言（提案）」をしましたという言葉があり、思考する意味（意義）を理解し身に付けている様子が伺えました。

### 【事業運営員（部局）】

- ・観光ビジネスでは地域の魅力に磨き上げから販売に至るまでを意識して学ばれており、観光振興課員の活動と同じ動きであることへの驚きと生徒の能力に高さ感心いたしました。
- ・高校生にとって大人に対して発表する、評価されるといった機会は貴重だと思う。この日のためだったりノルマではなく、本当に生徒たちがやりたいことや感動することが実現できる授業を継続していくことが大事だと思った。
- ・学生と直接話せたのが良かった。発表を聞いた事例では、学生も自分たちで設計して装置をつくり、その装置で作ったたい焼きを提供し、それを受け取った学生が笑顔で喜んでいるのを見て、大変だったけどやって良かった、ものづくりの本質みたいなもの、喜びを知ることができたと話しているのを聞いて、よかったです。
- ・生徒の皆さんの取組やそれをサポートする先生方、産業界の皆様の多岐に渡る協力については、素晴らしい事業だと思います。ただ、会としては、どうしても生徒のかたの話が中心になったり、意見・感想を多く求められるなど、生徒さんの負担が大きい点が気になった。（あと長時間な点）
- ・行政の会議体に高校生が参加していて、初めは驚きとともに、緊張感が走りましたが、高校生から直に成果発表を聞き、双方向でのやり取りを通して、NEXT 事業での体験が生徒たちの大きな実になっているなど実感しました。行政側の顔も生徒さん達にみていただき、企業や地域の方などNEXT 事業に多くの働く大人が関わっていて、生き生きと仕事をしていることを生徒達に感じていただければこの事業は成功かなと思いました。事業運営委員会の企画・進行等、ありがとうございました。
- ・学生の経験、産業側の学生視点・考え方の認識向上など双方のメリットがあると思われた。
- ・高校生の発表会が良かった。
- ・各校の事例発表の程度はあったが課題に対し企業等と連携し解決に向け試行錯誤した取組は貴重な経験となったと思います。
- ・時間の問題もあるでしょうが3校しか発表を聞けなかったのが残念でした。
- ・高校生が、県内企業の方々と実際にコミュニケーションをとりながら学べる場を作ることが、県内就職を促進する上で、非常に効果があると感じた。

### 【事業運営員（校長）】

- ・実践発表の中で見えてきた新しい連携についても今後推進していきたい。対話会では高校生と関係団体、学校がそれぞれの立場で意見を述べることで互いの理解が進んだのではないかと感じている。今後の高校教育の在り方を考える場に、高校生が同席していることの意義深さを強く感じた。
- ・工業の3つは聞けたが、他の校種の発表が聞けなかったのは残念であった。参加生徒も的確な回答をしていた。調整、お疲れ様でした。
- ・高校生の堂々としたプレゼンテーションを見て、それだけで事業が成功したのではないかと感じました。知識（学び）と現場等での実践をうまく組み合わせながら、主体的に考え行動できる生徒をたくさん育てていかなければならない、そのためにもこの事業が必要であることを感じる会でした。
- ・発表、質疑応答の受け答えを含めて、生徒の場慣れ感を強く感じた。各高校でアウトプットする場が多く設けられている成果であると思う。
- ・それぞれの学校の取り組みを知る良い機会となった。生徒が他校の発表を見る時間があつた方が良かったと思います。
- ・各学校の特色ある取組や産学官との結びつきの具体を知ることができて参考になりました。生徒にとっても刺激を受ける機会になったと思います。ありがとうございました。

#### 【部局（担当）】

- ・各分野で充実した実践的な学びが実施されており、生徒の方もそれをしっかりと活かした発表となっていることに驚きました。
- ・高校生が課題意識をもって取組を実践している状況を見て、非常に素晴らしいと思いました。
- ・いつもとても有意義な時間となっており、有難く思います。これからもぜひ続けていただきたいです。
- ・生徒と実際の反応を知ることができ、とても良い機会となりました。
- ・各学校とも企業からのアドバイス等を受けて、実践的な取組を行っており、これまでにない学びにつながっていると思いました。
- ・高校生と企業側の若手メンバー（20代後半から30代前半）との交流があると、現場の学び以外の職場環境や働き甲斐といった点での気づきもえられると思いました。
- ・時代に合った内容を高校生が実践的に学ぶことで、各分野において社会で活躍できる人材を育成することが出来るため、NEXT 長崎人材育成事業は、教育分野にとって、重要な事業だと改めて実感しました。商業、福祉、農業の分野の事例発表を聞かせて頂きましたが、どの学校もレベルが高く、将来の長崎県を担う貴重な人材だと思いました。
- ・高校生の事例発表はなかなか見ることがないので良い機会であつたし、また、高校生にとっても産業界等での発表は今後の経験にも生きてくると思います。これまで、鶴洋高校での仕事の繋がりはありましたが、今回の対話会は、高校生との距離が近く、生の声や本音が聞けたので、今後の業務の参考にしたいと思います。
- ・生徒が実体験を通した学びを経験していることもあり、取組について説明する場面では、生徒の目がとてもキラキラと輝いていたことが印象的でした。実践的な学びが、生徒の主体性や意欲を引き出していることを強く感じました。

- ・一方で、「産学官連携」を実現していくためには、現場で指導にあたる教員の負担、協力企業の選定、行政による支援体制の構築など、さまざまな課題があるのではないかと感じました。
- ・特に、先生から「協力してくれる企業を探すことが難しい」といった声があったことを踏まえ、学校現場だけで対応するには、限界があるとも感じました。
- ・こうした課題を解決していくためには、教育庁が高校現場の課題やニーズを丁寧に吸い上げるとともに、知事部局が関連産業側の課題や状況を把握し、その上で県庁内の各業種別の関係部署が一体となって強固に連携・協力する体制をまず構築することが重要ではないかと感じました。

### 【高校（担当教員等）】

- ・他の分野ではどのような連携（産学官）が行われているのか、知ることができました。また本校を含め他校生徒の活動や活躍を知ることができ励みにもなりました。
- ・多くの方々に、生徒の発表を聞いていただき、生徒もまた一步成長できたことと思います。また貴重な御助言をいただき、これからの教育に活かしていきたいと思います。
- ・全部の発表を聞くことができた方がよかったのではと思いました。他の学校の事例発表も参考にできれば生徒も参考になったのではないのでしょうか。
- ・企業の方からは「高校生が頑張っている姿を見て、大人も頑張らなければいけないと思った」という感想をいただき、互いに刺激し合える発表および対話会だった。また、企業の方からも様々な意見を伺い、互いに長崎の水産を盛り上げたいという意識が高まったことが大変よかった。
- ・対話会では、実践報告に対して多方面からの感想を聞くことができて良かったと思います。
- ・先ず、発表した生徒がとても有意義な時間を過ごし、満足していたことに感動しました。私自身商業高校、農業高校の取組みを聞いて、工業高校はまだ外部との連携に可能性があるのではないかと感化されました。
- ・実践発表は生徒の成果を広く知らせることができて有意義でした。
- ・他校の発表を見る・知るためにも回数を増やすか、ステージ発表形式の後、各ブースで質疑応答や実演でも良いのではないかと感じました。
- ・対話会では、生徒と各団体の代表が意見交換をする貴重な場であると思いますが、生徒は緊張している様子で、他分野の学校間と対話だと活発な意見がでたのではと感じます。教員も工業・農業・商業の職員同士や、各団体と対話ができればまた違う成果が出たかと思います。
- ・生徒は2年生の時に学校同士で対話があれば学校間の連携もできたか？という声もありました。しかし、この1年間企業の方、県の皆様のおかげで普段の授業では見れない生徒の活躍が見れました。ありがとうございました。
- ・生徒の意見や授業内容について知っていただき、それを受けた企業や各団体の皆様からのご意見は、大変参考になりました。今回の学びを、次年度の教育課程に生かしていきたいと思います。
- ・学校側の困り感を伝えることができ、本気で関係部局が考えてくださっていることがありがたいです。
- ・知り合えたことが非常に良いと思っています。
- ・実践事例発表では、各校の特色があり生徒が一生懸命に伝えている姿がとても好印象でした。また、対話会では県産業振興課の方が東京のIT企業で働いていらっしゃる経験を踏まえ、生徒たちに分かりやすく伝えていただきとても良かったです。

・(事例発表) 説明→体験という流れはよかったですと思いました。今回の取り組みは、介護のイメージ脱却と、本質について知っていただくということがメインでした。コメントの中に、共感できる内容が入っていたので、伝わった感がありよかったですと思いました。ただ、この内容をこれからの社会を担う若者達にどう伝えていくのか(わかりやすい内容、ささる内容など)という課題もあがりました。もっと福祉について知ってほしいという声も聞くことができました。『ミライの介護』というタイトルに見合った活動を今後も考えていく必要があると痛感しました。

(対話会) 発表に関してそれぞれ感想をいただきました。福祉×〇〇 福祉で学ぶことは福祉で働いている人だけに共通するものではない。そこで学んだ基礎を、いろいろな分野に活かすことができる。例えば、コミュニケーション技術や介護過程の考え方など。基礎を学び、他分野で活躍する方法もあるという意見もでていました。文科省の調査官が、同じようなことを言われていたことを伝えました。福祉×〇〇 〇〇にはいろいろな分野が入る。福祉はすべてにつながっている。改めて方向性は間違っていないことを実感しました。

また、生徒もこの数時間でたくさんのことを学び、自分が今後、探究活動でやりたことを話してくれました。なかなか、おとなとじっくり話す機会はないので、よい時間となりました。ありがとうございました。

### 【高校(生徒)】

- ・普段話さない大人の人と話せていい機会になりました。
- ・いろんな世代や分野の方から話を聞けてすごく役に立ちました。
- ・普段話すことのない人と話すことができ今後の学校のことなど改善されると思う。
- ・様々な話を聞いてこれからの学校教育がどうなっていくかとても貴重な意見を聞かせていただくことができました。
- ・色々な高校の取り組みを見ることができたり、たくさんの方々と話すことができいい機会だったと思います。
- ・非常に役に立つ経験となりました。ありがとうございました。
- ・福祉分野の方だけでなく、他の産業の方や他校の生徒も私たちの事例発表を聞きに来てくださり、多分野の方に興味を持っていただけたことが分かった。また対話会では、今回の事例から得られた経験や学びを、自身の言葉でありのままに伝えることができ、建設的な意見交換ができたと思う。

## 2 今後の産学官が連携・協働しながら取り組むべき人材育成について

### 【事業運営員(産業界・大学)】

- ・各学科の先生が積極的に企業訪問し、企業の特長、特技、最新技術を知る機会を増やして貰いたい。その上で必要であれば企業が出前授業や生徒を招いての工場実習の時間を作り、産業人材として育てて行きたい。
- ・あらゆる分野で、AIの有効活用に関して順応できる人材育成を、高校レベルでどの程度まで行っていくのかは今後の大きな課題。
- ・行政、産業界が子ども、学生の頃からの人材育成の重要性を浸透させ、合わせて地域への愛着を育む教育、機会提供をお願いします。可否の問題はありますが、是非一緒によろしくお願いま

す。

- ・皆で知恵を絞り、その取組みに参加したいと手を挙げる仲間を増やすことかな～
- ・長崎県産業教育振興会は、長年にわたり教育界と産業界が連携した人材育成に取り組んで来ておりますが、NEXT 長崎人材育成事業は同振興会が目指すものを具現化していただいたものと感謝いたします。
- ・産業界では、人手不足対策が喫緊の課題で、若者の域内定着促進が求められています。今回のNEXT 長崎人材育成事業は実業高校を対象とされていますが、昨今、普通科への進学や各種学校への入学が増加しているとお聞きする中、若者の定着、UIJ ターン促進を図るためには、実業高校以外の生徒さんを対象とした同様のプロジェクトが必要だと考えています。ご高配の程、よろしくお願い致します。
- ・特に産業人材の確保について、他の産業分野がどのような取組みをなさっておられるか、情報提供いただければ参考になると思います。
- ・この形の継続とともに、AI エージェントが当たり前になる今後を見据えた内容をさらに含める形が必要になると考えます。
- ・ホワイトカラーが消滅する時代になり、高度専門人材の育成が必要であるのは周知のことです。大学などの高等教育機関が産学官連携に一層、貢献しなければならないものと思います。

#### 【事業運営員（部局）】

- ・観光振興の分野では県だけではなく市町でも人材育成に取り組んでおります。今後とも意見交換を重ね、こちらからも積極的に提案していきたいと思っております。今回は貴重な機会をいただき誠にありがとうございました。
- ・このような学生と企業の方が直接、交流を持てる機会は続けていく必要があると感じました。特に、教科書では教えられないことを企業の方が教えることで、学生も大変勉強になったとのことなので、どちらにとっても良いことだと思います。
- ・会場で話を聞いた限り、参加する生徒は3年生が多かった印象があるが、そうであれば1・2年生を対象にするなどがいいのではないかと思います。（たまたまかもしれません）
- ・「多分野学校が連携した実践研究」を行い、ここに多くの関連産業が参画すると興味深いものになると思う。
- ・ぜひ継続してほしいと思います。
- ・高校生でこのような経験をすることで視野が広い人材の育成につながるし、企業等も高校生の考えなど刺激になると思います。
- ・県の研究機関も参加するとより課題解決につながるのではないかと思います。
- ・高校生が、目をキラキラさせて楽しそうに発表しているのが印象的でした。今後もぜひ継続して欲しい。

#### 【事業運営員（校長）】

- ・学校の枠を超えて、学校が地域（産業界・自治体）に飛び込むことと、地域（産業界・自治体）が学校に入ってくる必要があると感じます。県立学校は県民共有の財産であるとの視点から、学校をさらに「開放」し社会の風を積極的に取り込む姿勢が大事になるとも感じます。

- ・工業科で実施している「win-win プロジェクト」を、県が主導して広げてはどうか？
- ・情報産業協会の濱本会長からは、AIを中心とした技術の進展が凄まじく、企業の実力がそれに追いつけない状況があって、果たしてこの先、高校からのリクエストに答え続けられるか心配という意見をいただいた。また、県立大の本田先生からも、ネットワーク技術の一分野だった情報セキュリティ分野が更に細分化され高度化しており、専門の技術者が全く足りないという話もいただいた。この中で、高校の情報科でどのような知識、技術を身に付け資質を育てていくべきか、我々も早急に状況を整理し内容を検討していかなければと改めて感じた。
- ・生徒がそれぞれの学校の取り組みを知ることによって、生徒（学校）の連携ができれば長崎県において特徴のある産業教育が推進できるのではないかと思います（学校と企業、行政の組織的連携は取れてきているので次は学校同士が連携していく必要がある）。例として本校水産科で缶詰などの加工をするときに出る残渣（魚のあら）から肥料を作り農業高校の作物の生産に利用してもらう（農水連携）。現在行われている諫農の竹炭を水産科の水産生物の飼育水槽の水質浄化に活用する。など連携の可能性はあると思います。長崎版産業教育を進めていければと思います。産業教育は「ひとつ」！
- ・例えば、福祉の分野で言うと高齢者福祉、社会福祉制度、子ども家庭福祉、障害者福祉、生活保護、地域福祉等、幅広い領域が含まれる。したがって、より広い領域での産学官連携ができれば、生徒のニーズに応じた学びを深めることができると思います。

### 【部局（担当）】

- ・今回の事業を通じて、先生方の苦勞された点があるかと思しますので、そういった部分に産官でのフォローが出来ればと感じました。
- ・こういった取組を続けることが、県内のより良い人材の育成に繋がると思います。
- ・生徒たちの意見を伺う中で、NEXT の取組については、今後も継続して実施していくことが重要であると感じました。
- ・短期的な成果を求めるのは難しい面もあるかと思いますが、NEXT の取組を段階的に広げていくことで、中学生が「将来このような仕事に就きたい」「専門高校で学びたい」と思い、主体的に進路選択を行えるようになることが望ましいと思います。
- ・また、中学生に対しても、「地域の産業を知る」ことを目的とした、同様の実践的な学びの機会を設けることができれば、より効果的ではないかと感じました。
- ・取組を進めるにあたっては、「主役は生徒である」という視点が重要ではないかと思しますので、生徒たちの意向や気持ちを反映させた「学びの連携」が実現できると良いと考えます。
- ・個人的な意見ではありますが、現在、各部局において個別に担い手対策が実施されている中で、NEXT を大きな柱（軸）として位置付け、各産業の関係部局が連携・協力しながら一体的に取り組める体制が構築できれば、より効果的ではないかと感じました。
- ・今回、他産業における取組事例を知ることができた点についても、非常に学びが大きく、有意義な機会であったと感じました。今後も、こうした情報共有や意見交換ができる場を継続的に設けていただくと有難いです。

## 【高校（担当教員等）】

- ・本校にとっては、本当に強みとなる制度だと実感しています。引き続き今回の連携を生かし、本校の使命を全うしていきたいと思います。
- ・このつながりを大事にし、発展させ、生徒がより良い方向にすすみ、長崎県の未来を託せる人材に育ってほしいと思います。
- ・現在実施している企業については農業に関係しているため可能ではあるが、関連企業が県北地域には少なく今後については難しくなることが懸念されると考えられます。
- ・生徒が外部と繋がり続けられる環境を継続していただきたい。生徒が企業の方と連携することが教員の学びにつながると思う。生徒の深い学びとともに教員が学べる機会とブラッシュアップの機会をいただきたい。
- ・今回は、報告することに注力していたので他校の報告を聞くことができなくて残念でした。
- ・やはり企業側と学校側のやりたいこと、教育効果の部分のすり合わせが必要だと感じました。難しいことかもしれませんが、企業がこれからの人材を教育していくというところに目を向け、積極的に連携していただく企業が増えたら、いろんな可能性が見えてくると感じます。
- ・今年度は企業の方より「鯛焼き器を作りたい。学校は協力できないか？」という提案で連携がスタートした。企業の方の全面協力で成り立ったので、今後連携するためには、学校の体制よりも企業の温度感と協力体制が重要であると強く思います。
- ・学校での企業の方との対話会でも「お金は無い。行政でどうにかしてくれ」という企業のスタンスであり、材料費のみで人件費等は無償で対応していただいた。
- ・来年度も今年度同様で連携は継続し、生徒の意見を踏まえて連携内容を考えていきたい。
- ・現時点では特にありませんが、まずは始まったばかりのNEXTの枠組みを定着・継続させていくことに力を入れていきたいと考えています。また、参考となるような面白い取り組みがございましたら、ぜひ情報提供いただけるとありがたく思います。今後ともよろしく願いいたします。
- ・情報産業協会との連携協定があるので、課題研究だけではなく講演や講義、職場見学などで積極的に活用できればと思います。
- ・高校生の頃から産学官と連携・協働することは、まさに実践の場での活躍であり、将来の進路先や職業選択に大きな影響を与える機会だということを実感しました。
- ・今の高校生はスマートフォンで情報収集をしますが、情報収集の方法を間違っているように思います。情報元の把握ができない状況であり、かいつまんだ情報をつなぎ合わせ、本来の情報とは違う新たな情報が伝わったりします。そのため、将来の進路先や職業選択を行う上で、正しい情報が入ってこなかったり、知らなかったりするのではないかと思います。とてももったいないと思います。
- ・どのような産業があり、何をするのか、大まかなところはわかっているけど、実はその本質を知らなかったりする。
- ・今年の修学旅行でJAXAにいきました。宇宙のことなので、物理選択者を優先させたが、これは生物学のほうかもと、行った先生が話されていました。見て、聞いて、体験してわかることは大いにあります。まずは、その入り口を強化することは必要なと感じました。また、正しい情報と知識とその使い方も併せて教えていく必要があると思います。

## 【高校（生徒）】

- ・ いろいろな、高校との交流。
- ・ 異なる分野同士の学校で連携するのもいいのではないかと思います。例えば福祉系高校×工業高校で、バリアフリーやユニバーサルデザインに特化した建築物の案を出し合い、その分野の産学官の方に協力して頂くという形など。

## 6. 事業運営委員会の様子

